

事後評価結果（平成25年度）

担 当 課：近畿地方整備局 道路部 道路計画第一課
担当課長名：岩本 雅也

事業名	一般国道42号 田辺バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 近畿地方整備局
起終点	自：和歌山県西牟婁郡上富田町 峠 至：和歌山県田辺市秋津町 青木	延長	5.8km		

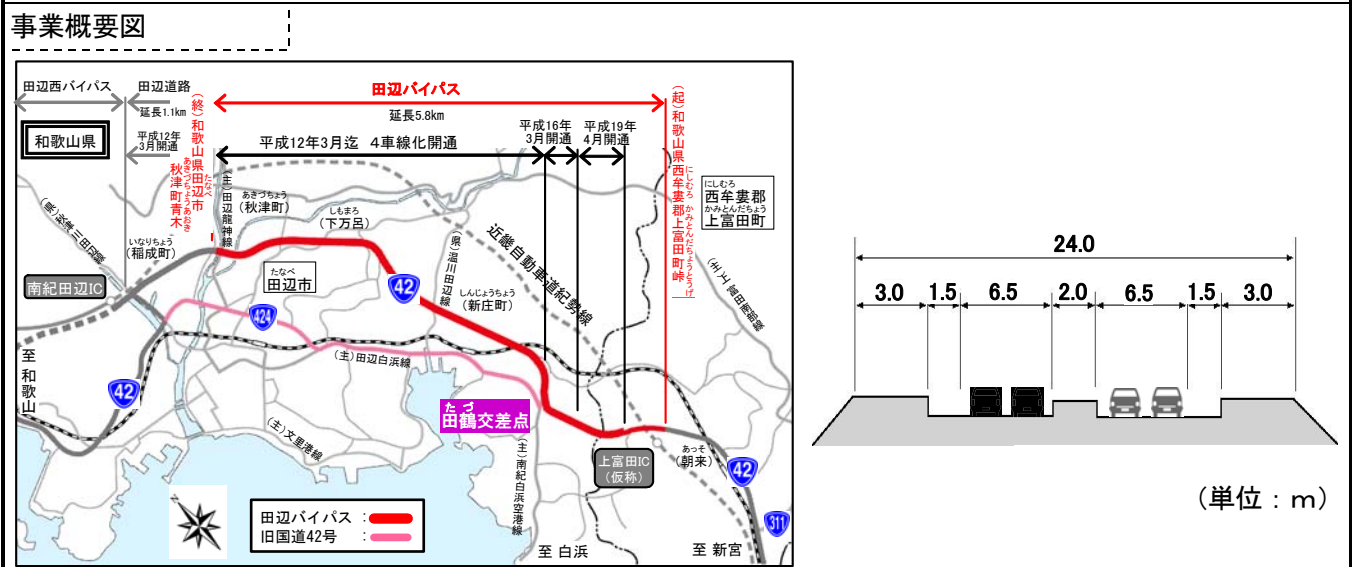
事業概要

一般国道42号は、静岡県浜松市を起点に愛知県、三重県、和歌山県新宮市、田辺市、御坊市など経由し、和歌山市に至る主要幹線道路である。

田辺バイパスは西牟婁郡上富田町峠から田辺市秋津町青木に至る延長5.8kmの現道拡幅及びバイパス事業である。

事業の目的・必要性

田辺バイパスは、田辺市街地の交通混雑の緩和、交通のボトルネックとなっている田鶴トンネルの解消、交通安全の確保を目的とした道路である。



事業の 効果等	事業期間	事業化年度	S47年度	用地着手	S50年度	供用年	(前回) /H24	変動	0.90倍
		都市計画決定	S48年度 (平成元年度変更)	工事着手	S52年度	(暫定/完成)	(実績) /H20		
	事業費	計画時	(名目値) 一億円 / 430億円	実績	(名目値) 一億円 / 435億円	変動	— 倍		
		(暫定/完成)	(実績値) 一億円 / 446億円	(暫定/完成)	(実績値) 一億円 / 397億円				
	交通量 (当該路線)	計画時	(H15年度)	実績	(H22年度)	変動	94%		
		(暫定/完成)	— / 日 / 29,500台 / 日	(暫定/完成)	— / 日 / 27,595台 / 日				
	旅行速度向上	23 km/h → 21 km/h			交通事故減少			242 → 152	
(供用前現道→当該路線)	(供用前年次) H6年度 (供用後年次) H22年度			(供用前現道→供用後現道)			(供用前年次) H6年度 (供用後年次) H22年度		
費用対効果 分析結果 (当初)	B / C	総費用	695億円	総便益	1,310億円	基準年			
	1.9	(事業費 : 673億円 維持管理費 : 22億円)		(走行時間短縮便益 : 1,292億円 走行経費減少便益 : 13億円 交通事故減少便益 : 5億円)		平成15年			
費用対効果 分析結果 (事後)	B / C	総費用	974億円	総便益	1,060億円	基準年			
	1.1	(事業費 : 935億円 維持管理費 : 39億円)		(走行時間短縮便益 : 969億円 走行経費減少便益 : 73億円 交通事故減少便益 : 19億円)		平成25年			
事業遅延によるコスト増		費用増加額			便益減少額				

		—	億円	—	億円
事業遅延の理由					
客観的評価指標に対応する事後評価項目					
①交通混雑の緩和（田鶴交差点の立体交差化） ・田鶴交差点の渋滞が解消 （休日：4,100m→40m、平日：1,100m→50m）					
②狭隘トンネルの解消、交通安全の確保 ・狭隘トンネル区間の廃止、歩道の分離により安全性が確保					
③利便性の向上（救急医療支援） ・上富田町から紀南病院までの搬送時間が短縮（約23分→約16分） ・救急搬送の安全性、安定性が向上					
④特急停車駅へのアクセス向上 ・上富田町～紀伊田辺駅への所要時間が短縮（19分→15分）					
⑤地方管理空港（旧第三種空港）へのアクセス向上 ・田辺市～南紀白浜空港への所要時間が短縮（28分→22分）					
⑥農林水産業を主体とする地域における農林水産品の流通の利便性向上 ・上富田町～田辺中央青果市場への所要時間が短縮（21分→15分）（特産物：ウメ）					
⑦日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・上富田町～田辺市への所要時間が短縮（21分→18分）					
⑧並行する現道における交通量の減少、安全性向上 ・（主）田辺白浜線 交通量25百台/日→18百台/日、死傷事故率：242件/億台キロ→152件/億台キロ					
その他評価すべきと判断した項目					
特になし					
事業による環境変化	環境影響評価に対応する項目				
	・環境影響評価は実施していない。				
環境変化	その他評価すべきと判断した項目				
	特になし				
事業評価監視委員会の意見					
審議の結果、「一般国道42号田辺バイパス」の完了後の事後評価は、事業評価監視委員会に提出された資料、説明の範囲において、おおむね適切に進められていると判断される。					
事業を巡る社会経済情勢等の変化					
人口は、田辺バイパス秋津～田鶴間の4車線化開通時（平成12年3月迄）に人口の増加傾向が強まり、周辺市町、和歌山県全体が減少傾向にあるのに対し、上富田町は3割増。 世帯あたりの乗用車保有台数は、上富田町が1.4台／世帯と和歌山県全体よりも多い。 田辺市と上富田町、白浜町間では就業・通学者の8割以上が自家用車・オートバイを利用。					
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性					
田辺バイパスの整備により、旧一般国道42号（現主要地方道田辺白浜線）における交通混雑の緩和、狭隘トンネル区間の解消による交通安全の確保などの効果が確認されるなど、効果の発現状況に特に問題はなく、今後の事後評価の必要性は生じていない。 また、想定された効果が発揮されており、当面の改善措置の必要性はない。					
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性					
田辺バイパスに関して、同種事業の計画・調査のあり方について、今後の参考となる事項はみられない。 また、事業評価の手法について、見直しの必要性はない。					
特記事項					
特になし					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。